

GLASS FIBER MESH 160

グラスファイバーメッシュ 160

塗り壁のクラックは下地で防ぐ

塗り壁の下地にグラスファイバーメッシュを埋め込むことにより、下地のモルタルの乾燥クラックの発生を大幅に抑えることができます。丈夫なガラス繊維は強い引張りの力にも耐え、耐アルカリコーティング加工が施されているのでモルタルに埋めても長期間劣化することがありません。また縦糸と横糸がしっかりと編みこんであるので、とても丈夫で、よれて型崩れすること也不会になります。



モルタル下地の場合

モルタル下地の塗り壁のクラックは、モルタルの初期乾燥クラックによるものが多数を占めています。十分に乾燥し切っていないモルタルに塗り壁仕上をした場合、モルタルの乾燥とともに塗り壁にもクラックが出てしまいます。

モルタル塗付時、モルタルの表面にグラスファイバーメッシュを貼り付け、コテで軽くしごくモルタルに埋まっていきます。壁面全面貼付してください。窓などの開口部には構造的に力がかかるので、細く切ったグラスファイバーメッシュを開口部の対角線上に 30～50 cm 程度 2重貼りするとより効果的です。



①モルタルに深く埋め込んでしまうとメッシュより表層にあるモルタルがクラックを起こしますので、モルタルの表面に伏せ込んで下さい

ボード系下地の場合

(サイディング・セメントボード)

ボード系下地の塗り壁のクラックはボードの目地部分が動くことにより起こります。気温の変化によるボードの膨張や収縮をはじめとして、加重、振動、地盤、構造的欠陥などその原因は様々です。

メッシュはボードのジョイント部分だけでなく壁面全面に貼って下さい。ボードの動きを面で支えるのでクラックに対してより強くなります。またジョイントテープを使用した場合、目地が帯状に盛り上がったり、透けて見えることがあります。それを防ぐ効果もあります。

ボードの表面全面に樹脂モルタル等を塗布し、そこにグラスファイバーメッシュを貼っていきます。ボードのジョイント部分とメッシュの継ぎ目が重ならないようにしてください。重ね代は 5cm 以上取ってください。

クラックを出にくくするためにはメッシュの施工以外にも色々工夫をするとより効果的です。縦胴縁に板を横張りにする。約 10cm ピッチで胴縁にビス止めする。補助胴縁を入れてビス止めする、など、ボード自体の動きを止める工夫をするとクラックの発生を防ぐのに効果があります。

